

西洋事情

初編

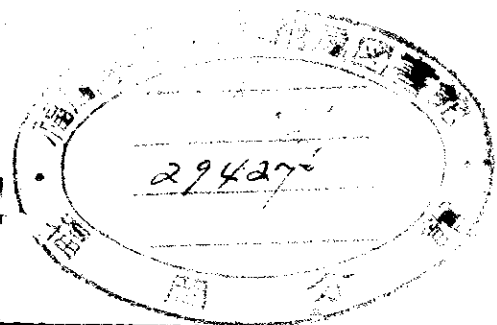
三

第一師範
附屬
三

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番	第 23427 號
歷史科 學部	
一口八洲史部	
編己	泉 總記 項
目	次
全	冊ノ内第 冊
分類 番	第 23008 號

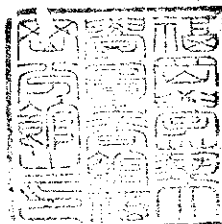
T 1A1
27
F 85



西洋事情卷之三

英國

史記



福澤諭吉 纂輯

羅馬人初テ英國ニ渡来スルマテハ此國ニセル者
ク及ヒゴシックト云ヘル二個ノ大家族有テ國民之
ニ服役セシト云フ羅馬帝セサルカ英國ニ来リシ
ハ紀元前五十五年ノ一ニテ其後九十年ノ間ハ羅
馬ノ害ヲ蒙ルナク紀元後四十三年羅馬帝
チヌ師ヲ起シテ英國ヲ征シ四十年ノ間ニ全ク其

土地ヲ押領シタリ
羅馬人此國ヲ押領セシヨリ諸術學ヲ傳ヘ文明ノ
道ヲ開キ國內ニ三十三都府ヲ設ケ各所ニ軍兵ヲ
屯シ街道ヲ作テ諸府及ヒ屯所ノ間ニ往來ノ便ヲ
為シ都府ノ外草昧ノ地モ爾後二百年ノ間ニ漸ク
之ヲ開拓シタリ此時ニ當テ羅馬ノ武威次第ニ衰
微シテ全國獨立ノ姿トハナリタレ氏國內互ニ爭
鬪シテ人民ノ苦難ハ却テ羅馬ノ時ヨリモ甚シト
云フ但シ此時代ノ正史ハ後世ニ傳ハラスシテ事
情ヲ詳ニシ難シ紀元四五百年ノ間ニ日耳曼ノ北

方ニサクソント云ヘル人種アリテ英國ニ渡來シ
次第ニ之ヲ押領シタリ此人種ヲアングロサクソ
ント稱セリアングロサクソントハ英國
ニ居ルサクソント人ノ義ナリ
アングロサクソントニテハ國人ノ爵位ヲ數等ニ分
テ諸王ハ自カラ天ノ後胤ト稱シ位ヲ血統ニ傳レ
氏相續ノ定律ナシ第二等ハ「イールト」稱シ今ノ諸
侯ノ如シ第三等ハ「セラルト」稱シ第一等ノ支配ヲ
受ク第一等ト第二等トノ爵位ノ差ハ同盟シテ事
ヲ謀ル氏第二等ノ者五人ノ同說ヲ以テ第一等ノ
者一人ノ說ニ對スヘク又或ハ國法ヲ以テ刑罰ニ

行ハル、氏モ第二等ノ者五人ノ命ヲ以テ第一等ノ者一人ノ命ニ當ルヘシ諸侯以下數等ノ階級アリテ最下等ナルモノハ奴隸ナリ

アングロサクソンノ支配ノ間英國ノ地ヲ分ツ法ハ第一ヲ諸侯ノ領地ト爲シ其以下ハ百戸ニ分チ又十戸ニ分チ各其主長ヲ立テ領地ニ裁判所ヲ設ケテ政ヲ施シ且其領地ニテ小吏ノ爲セルコトハ善惡トモ領主ヲシテ其責ニ任セシム又此時ニハ賢明智識ノ集會ナルモノ有テ國民ノ爲政府ニ對シテ愁訴歎願スルコトハ却テ官途ニ參ル評議官ヨリ

モ權威アリ案スルニ諸侯及ヒ僧官ノ貴キ者ハ此集會ニ加ハリ又國內ノ諸方ヨリモ名代人ヲ送タルヲナルヘシ國王ハ此集會ノ助ヲ以テ法律ヲ施スト雖氏王位相續ノコトハ國王ノ意ヲ以テ獨斷スルナリ○耶穌教ノ英國ニ入タルハ紀元後百年ノコトナリシカ羅馬滅亡ノ後國內混亂シテ此教法全ク中絶シタリ紀元六百年代ノ始ニ至テ再ヒ之ヲ起シ次第ニ開化ニ赴キ以テ今日ニ至レリ

アングロサクソンノ内ソスセキスノ君エurlナルモノ諸酋長ト戰ヒ大ニ勝利ヲ得テ一時之ヲ威

服シ紀元四百九十一年ノ頃自カラブレトワル
ト稱セリ人ヲ支配スル首長ノ義○アングロサク
ソニ英國ニ渡来シテ多年ノ間諸方ヲ征服スル
ニ當テ此人種諸處ニ割據シ各獨立ノ勢ヲナセリ
其獨立國ノ大ナルモノハウェセキスソセキス
ケントエスセキスデイライーストアングリヤ
ノスラムベルフンド是レテ此七國或ハ興リ或
ハ衰ヘ互ニ相并吞シテブレトワルドノ位ヲ傳ヘ
リ之ヲ七國ノ世ト名ツク紀元八百三十年ニ至テ
ウェセキスノ君エグベルトナルモノ遂ニ此位ヲ

得タリ世人之ヲ英國一統ノ始祖ト稱ス
エグベルト位ニ即クア連國人初テ入寇セリ是レ
ヨリ百五十年ノ間屢連國人ニ侵サレテ國內文明
ノ進步モ之カタノ中絶セリ且アングロサクソ
ノ君ハ國民ト一和シテ防禦ノ策ヲ設クス却テ内
乱ニ時日ヲ費シ連國ノ大敵侵入スレハ僅ニ薄弱
ノ兵ヲ出シテ防禦セシムルノミ其後サクソ王
アゼルスタン及ヒエドモントノ世ニ至リ專ラ外
敵ヲ防キ内亂ヲ鎮靜スルノ策略ヲ施シタレハ連
人ノ勢益盛ニシテ全英國ヲ掠亂シホムブル河北

ノ地ニ割據シテ其辺傍ニ多ク建人ノ種族ヲ遺シ
タリ紀元一千零十七年連人盡ク英國ヲ押領シタ
レ氏二十四年ヲ經テ一千零四十一年ニ至リアシ
ゴロ、サクソンノ君エドワルト之ヲ恢復シテ國位
ニ即キタリ然レ氏エドワルトノ在位ハ唯名義ノ
ミニテ英國ノ土地ハ其時ノ六大諸侯及ヒ連人英
人ノ酋長ニ分與シテ國王ハ准空位ヲ守レリ一千
零六十六年エドワルト王死シテ子ナシ初メ王ノ
在位中ニウエスセキハ侯ハロルド竊ニ謀反ヲ企テ
リ王之ヲ察シテ死ニ臨ミ遺書シテ王ノ親族ノル

マンチ侯井ルレムヲ立テ、嗣子ト爲シタリシガ
王ノ死スルニ及テハロルド果シテ王位ヲ篡テ自
立セリ井ルレム乃チノルマンダノルマンダハ佛
蘭西ノ舊地ナリ
ヨリ大兵ヲ舉テ英國ヲ攻メ一千零六十六年ハス
チングスノ決戰ニテ大ニ英ノ師ヲ敗リハロルド
ヲ殺シテ英國王ノ位ニ即ケリ之ヲノルマンノ一
統ト稱シアシングロ、サクソリノ家系ハエドワルト
ニテ絶タリ
ハルマンノ一統ハ英國歴史中ノ一大變革ナリ一
統ノ後法律ヲ改メテ王室ノ所領ヲ除クノ外ハ國

内ノ土地ヲ有功ノ武臣六萬人ニ分與シテ世祿ト
為セリ但シ世祿ノ法ハ「サクソン」ノ世ト異ナル
ナシ右ノ如ク配分シテ英國ノ地過半ハ「ノルマ
ン」武臣ノ采地ト為リタレド尚ヲ「サクソン」人及ヒ
連人ノ酋長ニテ土地ヲ押領セルモノ多シ此酋長
等ハ或ハ政府ノ法令ヲ憚ラスシテ私ニ其土地ヲ
保ツモノダリ或ハ政府ニ臣服シ政府ノ免許ヲ得
テ之ヲ保ツ者アリ○「ノルマン」在位ノ終ニ於テハ
英國ノ人口凡ソ二百萬アリ此時ニ當テ國內北方ノ
地ハ多ク荒廢シ且「サクソン」ノ世「エドワール」王ノ

「ノルマン」一統ノ兵乱ニ由テ諸州ノ人民過
半ヲ失ヒタルヲハ諸書ニ記載セリ之ニ由テ考フ
レハ「ノルマン」王一代ノ間ニ凡ソ三百萬ノ人口ヲ減
少シタルベシ

一千零八十四年「ノルマン」死スルハ其次子第二世
「ロフス」「ノルマン」ニ英國ヲ與ヘ長子「ロベルト」ハ「
ノルマン」ニ遺シ置キタレハ之ニ其本國ヲ與ヘ第
三子ヘマリニハ母ノ遺物ヲ與ヘタリ第二世「
ノルマン」在位ノ間ハ記スヘキ大事件ナシ一千百年遊
獵ノ時流矢ニ中テ死ス是ニ於テ英國ノ王位ハ其

兄ロベルトニ傳フベキ理ナレバ此時ロベルトハ
遇パレストイン 亞細亞州ニ出師シテフルマンガ
在ラサルニ由リ第ヘスリ間ニ策シテ英國王ノ
位ニ即クヲ得タリ之ヲ第一世ヘスリトスヘヌ
リ位ニ即テヨリ元トノサクソン王エドガルノ姪
女マナリダヲ娶テサクソン家ヲ同一ノ系統ニ并
セリ○其後ヘスリハ師ヲ起シ兄ノ所領フルマン
ガヲ攻メロベルトノ歸路ヲ要ニ迎ヘ戰テ遂ニ之
ヲ禽ニシ終身獄屋ニ幽閉セリ然レバヘスリ王ノ
ルマンガヨリ凱陣ノ片海上ニテ唯一人ノ男子溺

死ンタルハ兄ニ敵對セシ罪科ノ報ヒト云フベシ
一千百三十五年第一世ヘスリ死シ其姪ステーエ
ンン立ツ初ノ第一世ヘスリノ女子マナルダアンンジ
リノ君ブランテーシットニ嫁シテ一子ヲ生ミ之
ヲ第二世ヘスリト名ツクステエン在位ノ間國
氏ヘスリニ望ヲ歸シ之ヲ立テハ國王トセント欲
スル者多シ且第一世ヘスリノタノニハ正統ノ孫
ナルガ故ニステーエンエ之ヲ拒ムヲ得ス條約
ヲ結テ死後ニ位ヲ傳ントヲ許シタリ一千百五十
四年ステーエン死シ第二世ヘスリ立ツ第二世ハ

ラニテ一子ナルが故ニコレヨリ第二世ヘヌ
英國ノ王家ヲプランテ一姓ト稱ス
リノ其ハ其本家ノ所領アンジユト近傍ノ地ヲ取り
佛蘭西全國ノ三分一ハ英國ニ屬セリ一千百八十
九年ヘヌリ死シ其長子リチャルド立ツ一千百九十
九年リチャルド死シテ子ナシ其弟ジョン立ツ
ニ在世ノ間ハ英國ノ政治大ニ荒廢シタリ此時ニ
當テ佛蘭西王フリップ、オ、シュスタヌ英明ノ君ニテ
近來英國ニ屬セル土地ヲ恢復シテ再ビ佛蘭西ノ
圖版ニ併セタリ然レハ英國ニ於テハ一千百七十
二年第二世ヘヌリノ時代ヨリ阿爾蘭ヲ征伐シテ

次第ニ之ヲ押領セルが故ニ佛蘭西ノ地ヲ失フト
モ所得ヲ以テ所失ヲ償フニ足ルベシ但シ阿爾蘭
ヲ全ク制伏シタルハ爾後四百年ノナリ千二百
十九年ジョン死シ太子第三世ヘヌリ年甫テ九歳
位ニ即キ王ノ叔父ペムブローク侯政ヲ攝ス千二
百七十二年第三世ヘヌリ死シ太子位ニ即ク之ヲ
第一世エドワルドトス○一千零六十六年ハルマ
ニ一統ヨリ第一世エドワルドノ即位ニ至ルマデ
ノ間ニ記スベキ事件ノ大略ハ左ノ如シハルマニ
一統ノ後ハ封建世祿ノ法ヲ定メ貴族ハ各土地ヲ

領シテ其領地ノ内ヲ臣下ニ分ル與ヘテ領内ノ政
ヲ治メ又右ノ貴族并ニ小祿ト雖モ國王ヨリ直ニ
領地ヲ賜ハル者ハ一般ニ集會シテ事ヲ議シ此會
議ニテ定タル法律ヲ以テ國中最上ノ權トス故ニ
貴族等ハ常ニ國民ト一和シテ其力ヲ藉リ王室ニ
向テ爭論シ國王ヲシテ獨リ權柄ヲ專ニセシメス
千二百十五年ジヨン王在位シバニ至テマダ大
ル^{大法}ノ義ト云ヘル法律ヲ定メリ此法律ノ趣旨ハ
國王ノ特權ヲ恣ニスル惡弊ヲ防クモノニテ其大
意ハ二條アリ即チ第一條ハ凡ソ國民ニ罪アル者

ハ必ス支配ノ主人ニテ其罪ヲ吟味シ裁判シテ然
ル後之ヲ罰スヘシトノナリ此ノ條令後世ニ傳
ヘテ時代ニ從ヒ事宜ニ應ジテ第二變革シテ今日
英國ニ行ハル「トライニバル、ジューリ」ノ法トナ
レリ英國ニテハ裁判後ノ獨斷ニテ罪人ヲ吟味シ
判^ノ正^否ヲ見^テ行^フ之^ヲ得^ス必^ズ立^テ合^ノ罪^人モ其^ノ罪^ニ伏^シ立^テ裁
合^ノ處^スル^ヲ其^ノ裁^判ニ付^キ異^ニ論^ナキ^ニ至^テ初^ニ身^ヲ分^テ刑
ヨ^リキ^モノ^ヲ其^ノ立^テ合^ノ者^トハ平^ニ生^ニ國^内ニ^テ初^ニ身^ヲ分^テ刑
其^ノ人^數ノ内^{ヨリ}置^キ裁^判ノ起^ル毎^ニ人^ヲハ呼^ビ出^テ
シ^テ裁^判局^ニ列^スセ^シム^ル或^ハ十^ニ人^ヲハ呼^ビ出^テ
ル^バイ、ジューリ^ト云^フ但^シム^ル合^衆國^モ此^ノ法^ヲ同^シ樣^ニト^ライ^エ
ノ法^ナレ^バ佛^蘭西^荷蘭^等ニ^ハ此^ノ法^ヲ同^シ樣^ニト^ライ^エ
國會ノ大議ニテ免許スルニ非サレハ國民ヨリ軍

役ノ代トシテ金ヲ収ム可ラトノナリ此條令ハ唯世祿ノ土地ヲ領セル貴族等ノタメニ益アルノミニテ國王私家ノタメニハ不便利ナリ後世ニ至テ下院ノ議事官國內收税ノ權柄ヲ執ルノ法ハ此條令ニ基キタルナリ○此法律ヲ定テヨリ王室ト貴族ト互ニ權ヲ爭ヒ貴族ノ勢次第ニ強盛トナリ第三世ヘヌリノ代ニ至リレイセストルノ君モンフアルトナルモノ一時英國ヲ支配シ千二百六十五年諸方ノ名代人ヲ會シテ國事ヲ議シタルアリ即チ英國議事院ノ始ナリ○又第二世ハ

レハ時代ヨリ政府ト寺院トノ間ニ爭論ヲ生セリ其事柄ハ第一寺院ノ僧官ニテ俗事ヲ取扱フニ付キ政府ニテハ俗事ヲ取扱フノ權ハ王室ニアルカ故ニ王室ヨリ其僧官ヲ命スベシト云ヒ寺院ニテハ此權ハ法皇ヨリ出タルモノナルカ故ニ寺法ニ由テ自カラ之ヲ命スヘシト云フ第二衆僧ニ罪アルキ政府ニテハ寺院ヲ支配スル權アルカ故ニ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシト云ヒ寺院ニテハ寺法ニ從テ之ヲ裁判スヘシト云フステイフェン王ハ第一條僧官ヲ命スルノ權ヲ寺院ニ許シタル第

二世ハスリ王ハ痛ク之ヲ拒シ寺院ノ特權ヲ奪テ
舊法ニ復シタリ爾後又寺院ヨリ異論ヲ唱ヘ其勢
次第ニ盛ニシテ政府ノ權ヲ壓倒スルニ至リタレ
氏第三世ヘスリノ世ニ及テ在位ノ長キ間ニ漸ク
寺院ノ權ヲ削ギタリ○第一世エドワルト在位ノ
間ニ國內ノ政治次第ニ整ヒ國政會議ノ様子恰モ
現今議事院ノ風アリ印ヲ國內ノ貴族ハ自ラ會
議ニ出席シ貴族以下ニテモ悉ク地ヲ領スルモノハ
數人ノ内ヨリ名代人ヲ出シテ會席ニ列坐セシメ
兩局相別ルハ、今ノ上院下院ノ如シ然レハ此會

議ノ人々年月ヲ經ルニ從テ次第ニ權威ヲ張リ國
内一般ノ事務ニハ注意セスレテ徒ニ國王ノ命ヲ
拒ミ且當時ノ法ニテ貴族ノ領地ハ世々子孫ニ傳
ヘ易ハルヲナクシテ附臣ヘハ新ニ世祿ヲ與フル
ヲ禁スルカ故ニ貴族ノ領地ハ益加増シ世祿陪臣
ノ數ハ益減セリ○第一世エドワルトノ世ニ於テ
ハ寺院ノ俗權ヲ削ギタレバ此事ニ付テ爭論ヲ起
スヲナシ外國交際ニ於テハ其勢甚盛ナリ又ラ
ルスヲ征服シ蘇格蘭スコットランドヲ攻テ殆ント之ヲ服役セシ
メタリナリルハ英國東方ノ地ナリ從來獨立國
ナリナリシカ此時ヨリ英ノ所領トナリ方今ニ

テモ英國ノ太子ハ
ヲールス侯ト唱フ

千三百零七年第一世エドワルト死シ太子位ニ即
ク之ヲ第二世エドワルトトス第二世エドワルト
ハ父ノ業ヲ繼クハ蘇格蘭ト戰テ敗衄シ其
後常ニ國內ノ貴族ト不和ニシテ遂ニ千三百二十
七年議事院ノ評議ニテ王位ヲ廢セラレ幽室中ニ
死シタリ其子第三世エドワルト位ニ即ク年甫テ
十四歳ナリ第三世エドワルト在位ノ間ニ起クル
大事件ハ佛蘭西トノ戰爭ナリ其發端ハ佛蘭西國
王死シテ嗣子ナシ其血縁ノ者ヲ詮鑿スルニエド

ワルトノ母氏イサベラ佛ニ嫁スルモノ最モ近親ニテ

佛蘭西國王ノ位ヲ繼クヘキ理ナレバ佛國ノ法律
ニ於テ國位ニ即クモノハ必ス男子ニ限レルカ故
ニイサベラヲ立テス見テ於テエドワルト王議論
ヲ起シ佞令ヒ國法ニテ婦人ノ身ヲ以テハ王位ヲ
繼ク可ラサルトモ其所生ノ男子ナレハ自カラ佛
蘭西國ニ君臨スルノ理アリトテ兵ヲ起セリ是ヨ
リ先ニ英國ノ兵ハ蘇格蘭ト戰爭中ナレバ佛蘭西
ノ事起ルニ及テ國人皆蘇格蘭ヲ棄テ、佛ニ向ヒ
千三百三十七年ヨリ千三百六十四年ニ至ルマテ

三十七年ノ間戦争シテ屢勝利ヲ得。遂ニ佛蘭西王
ヲ生捕リ其國內ヲ掠亂シタレド到底英國ニ得ル
所ノ利ハ「ボルドー」「バヨン」「カレ」ノ地ヲ押領シタ
ルノミ

第三世「エドワルト」ノ世ニ於テハ士風一面目ヲ改
メテ次第ニ文明ニ進ミ又後來「ルマン」人ト「サク
ソン」人トノ間ハ動モスレハ不和ナリシカ「モ佛
蘭西」トノ戦争起テヨリ一般ノ人氣ヲ引立テ却テ
國內一致シ初テ大英一國ノ風儀ヲ成シ「サクソン」
ノ言語モ次第ニ變化シテ英語トナリ文學大ニ進

ミタリ

千三百四十九年惡疫大ニ流行シテ國內ノ人口過
半ヲ亡スコレヨリ諸侯夫職人ノ賃銀騰貴セシニ
付テ官府ヨリ命ヲ出シ古來ノ割合ヲ以テ賃銀ヲ
取ラシメントシタレド人心之ニ服セス依テ又嚴
法ヲ設ケ賃銀ノ高下ハ自然ニ任セテ官府ヨリ妨
ル「ナシ」ト雖モ都テ六十歳以下身體強壯ニシテ
活計ナキモノハ他人ノ求ニ應シテ奉公セサルヲ
得ス若シ之ヲ拒ムキハ罪ニ行ヒ且奉公ノ年期中
ニ出奔シテ他國ニ遁ル、モノアレハ直ニ之ヲ召

捕へ其前額ニ奔ノ字ノ焼印ヲ押ヤリ又此時ニ於
テハ佛蘭西トノ戰爭ニ由テ軍費乏ラサルニ付キ
其後通用金ノ位ヲ低クセシカ故ニ物價騰貴シ從
テハ職人ノ賃銀モ増スヘキ筈ナレド亦之ヲ禁シ
徒ニ官府ノ命ヲ以テ物價ヲ定メ其弊ヲ救ハント
シタレド不便ヲ以テ不便ヲ救フノ策ニテ時勢ニ
益アルヲナシコレヨリシテ次第ニ國內ノ人心ヲ
失セ第三世エドワルト在位ノ間ハ無事ナリシカ
其嗣子第二世リチャルドノ世ニ至テ内亂ヲ生シ千
三百九十九年王ノ叔父ランカストルノ君ヘスリ

兵ヲ擧ケリチャルトノ廢シテ自立ス之ヲ第四世ヘ
スリトス此君ハ生來才力アレド篡立ノ後國內常
ニ擾靜ナラス但シ議事堂ノ法ヲ脩メ上下兩院ヲ
一和ヤシメタルハ在位中ノ大功ナリ第四世ヘス
リ死シ太子立ツ之ヲ第五世ヘスリトス第五世ヘ
スリ王位ニ即テヨリ祖先ノ志ヲ繼テ佛蘭西ノ國
位ヲ無ントシ兵ヲ起シテ之ヲ攻メ多年ノ間戰爭
シテ第六世ヘスリノ世ニ至テハ大ニ佛ノ兵ニ克
テ殆ント其國ヲ押領セントスルノ勢ナリシカ本
國ノ内亂ニ由テ遂ニ兵ヲ引キタリ○初ノ第四世

ヘヌリノ死スルキ其嗣子アレドヨルクノ君リ
ルト國位ニ即クヘキ正統ナリトテ兵ヲ舉ケテ
カストル家ト戰ヒ四十年ノ間互ニ勝敗アリ
セハヌリハカストルヨリ起タハヲ以テ第四
世ヨリ第六世ヘヌリニ至ルヤテヲシカストル
ト云フ世千四百八十五年ヘヌリチュートルナルモ
起テヲシカストルノ家系ヲ續キヨルク家ノ女ヲ
娶テ國內一統ニ歸ス之ヲ第七世ヘヌリトス○第
七世ヘヌリノ世ニ於テ記スヘキ大事件ハ封建世
祿・貴族ヲ壓伏シテ其權ヲ削タル一條ナリ英國
舊來ノ風習ニテ國內ノ大貴族多ク家來ヲ養ヒ私

ニ攻伐防禦ノ備ヲナシテ國內ニ威權ヲ張り他ト
爭論ノヲアレハ家來ハ各其君ヲ助ク裁判所ニ出
テ之ヲ辯論スルノミナラス其シキニ至テハ國法
ヲ犯ストモ君ノ威權ヲ藉リ罪ヲ遁ルヘキヲ知テ
君ノ仇トスル所ノ人ヲ襲撃スルヲアリ或ハ又此
家來等君ノ手ヲ離レテ浪人スルヲアレハ他ニ活
計ノ路ナク強盜ヲ以テ事トナシ英國内亂ノ間ハ
其亂暴殆ント極度ニ至レリヘヌリ王位ニ即テヨ
リ意ヲ決シテ此惡弊ヲ除カント欲シ種々其處置
ヲ施シタルニ遂ニ又戰爭トナリ國內ノ貴族ト戰

テ大ニ克ナ一時ニ其權柄ヲ奪ヒ又隨テ其家ヲ没
入シ大貴族ノ滅ルモノ甚多シコレヨリシテ貴族
ノ勢威全ク地ニ墜タ且其風俗次第ニ游惰ニ流レ
其領地ノ者ヲ武役ニ用ユル代トシテ領内ヨリ金
ヲ出サシムルニ至テ卑賤ノ小民自カラ武事ヲ廢
シテ工業ヲ勉メ王室ノ法律ヲ尊奉セリ都テハス
リ王ノ政ハ強大ヲ制壓ハルノ趣旨ナレ氏隨テ又
弱小ナル下民ヲ撫育シテ其所ヲ得セシムルカ故
ニ貴族ヲ滅シテ徒ニ王室ノ特權ヲ張リタルニハ
非サルナリ第七世ヘヌリ死シテ太子立ツ之ヲ第

ハ世ヘヌリトス○第八世ヘヌリ故アリテ其妃ヲ
離別ヤントシテ羅馬法皇ノ許ヲ得ス依テ法皇ト
信ヲ絶ナ自カラ諸寺院ノ統領ト稱セリコレヨリ
先キ日耳曼及ヒ瑞西ニ於テプロテスタント方今
人ノ唱ル耶蘇正教ナルモノニテノ宗門起テ英國
天主教ヲ改宗シタルモノト云フノ學僧モ竊ニ
ノ人民之ニ歸依スルモノ多ク寺院ノ學僧モ竊ニ
之ヲ信仰セシカハ此度國王ト羅馬法皇ト不和ヲ
生スルニ至テ矇昧ノ小民ハ益羅馬ノ天主教ヲ惡
ミ且又強暴ナルモノハ天主教ノ寺ヲ毀テ財物ヲ
掠奪スルヲ悅ヒ之カ爲プロテスタントノ宗門次

第二國中ニ弘マリタリ國王モ從來此ノ宗旨ヲ信スルニハ非サレ氏自カラ寺院ノ統領ト稱シテ羅馬ニ敵對セルカ故ニ止ムヲ得スシテ國人ノ政宗スルヲ許セリ千五百四十七年第八世ヘスリ死シテ其一子エドワルト立ツ之ヲ第六世エドワルトトス年甫テ九歳アリ○エトワルトハ大ニプロテスタン^トノ宗門ニ歸依シ國內ノ教化次第ニ盛ナリシカ千五百五十三年不幸短命ニシテ死ス年十五歳ナリ死後其姉マリ立テ女王トナル○此女王ハ專ラ天主教ヲ信シテプロテスタン^トノ宗ノ者ヲ

痛ク追捕シ國內宗門ノ爲ニ命ヲ落スモノ二百人餘ナリト云フ即位ノ後西班牙王第二世セリクノ配偶トナリタレ氏子ナシ千五百五十八年死シテ異腹ノ妹エリサベツト立ツエリサベツトハ元來フロテスタン^トノ教ヲ奉スレ氏其宗派ノ人ノ跋扈スルヲ嫌ヒ強テ其宗門ニ左祖セサルカ故ニ天主教ノ人モ憤懣スルヲナクシテ却テ互ニ一致セリ○封建世祿ノ法次第ニ廢止セシヨリ國內ニ於テ土地ヲ所持セル者ハ新地ヲ開拓シテ其領分ヲ弘ムルノ望ヲ絶テ專ラ其身一代ノ間ニ蓄財スルヲ

ノミヲ勉ルカ故ニ開墾スヘキ土地モ自カラ荒蕪
ニ屬シ之カ爲小民産業ヲ失テ他國ヘ流移スルモ
ノ多シ又亞米利加ノ金坑ヲ發見セシ以來通用金
ノ位非常ニ下落シ隨テ諸品物ノ價俄ニ騰貴シテ
諸民困窮セリ固ヨリ物價ノ騰貴スルニ準シテ日
雇賃銀モ増シタレバ物價ノ割合ニ應セスシテ物
論穩カナラサルカ故ニ政府ヨリ屢法令ヲ出シ遂
ニ千六百零二年救貧ノ大新法ヲ立タリ○エリサ
マツトノ世ニ於テハ英國ノ武威内外ニ耀キ阿爾蘭
モ四百年前初テ征服シタレバ此ノ時ニ至テ其服

從スルヲ益固ク且又國人航海ノ術學モ一時ニ開
ケテ大ニ進歩シタリ千六百零三年エリサベツト死
シテ子ナシ是ニ於テ蘇格蘭ノ王第六世ゼームス
骨肉ノ故ヲ以テ英國王ノ位ヲ嗣キ攻テ第一世ゼ
ームスト稱セリコレヨリ兩國一統ニ歸シ國ヲ大
不列顛ト名ケ阿爾蘭ヲ併セテ合衆王國ト稱ス○
ゼームス王在位ノ間ハ内外無事ニシテ國民太平
ノ德澤ヲ蒙リ亞米利加ノ地方ヲ開拓シテ英國ノ
所領トナシタルモコノ時ヲ以テ始トス但シ王ノ
爲人器量偏小ニメ私欲多シ常ニ議事院ト權柄ヲ

争ヒ在位二十四年ノ間其爭論止ムコナシ千六百
二十五年死シテ太子立ツ之ヲ第一世「チャールズ」ト
スコノ時ニ當テ議事院ノ威權次第ニ盛大トナリ
諸州ヨリ名代人ヲ出シテ國政ヲ會議シ上下各其
所ヲ得衆庶富饒ニ至リタレト國王ハ議事院ノ盛
ナルヲ忌ミ其權柄ヲ奪テ王室ノ威ヲ張ラント欲
シ即位後四年ノ間ニ三度議事院ノ會議ヲ設ケシ
カ爾後ハ之ヲ廢セリコレヨリ物論蜂起シ之ニ加
フルニ國內宗旨論ニテ各處ニ徒黨ヲ結ビ互ニ相
爭鬭シテ殆ント間日ナシ是ニ於テ止ムコヲ得ス

議事院ヲ再興シタレト遂ニ國亂ヲ救フ能ハス
千六百四十九年議事院ノ定議ニテ國王ノ位ヲ廢
シテ國ヲ合衆政治トナシ「コロムウェル」ナル者國議
總督ノ名ヲ以テ政權ヲ專ラニシ内外ト戰テ屢功
アリ千六百五十一年「コロムウェル」死シ其子總督ノ
職ヲ辞スルニ及テ千六百六十年國人共ニ第一世
「チャールズ」ノ子ヲ奉シテ國王トナス之ヲ第二世ト
ス「イレスト」名ツク千六百八十五年第二世「チャールズ」
死シテ其弟立ツ之ヲ第二世「ジェームズ」トス「ジェーム
ズ」位ニ即テヨリ父兄ノ遺風ニ後ヲ大ニ效テ奉信

他宗ニ歸依スルモノヲ惡ハシ甚シク之ニ由テ
人心ヲ失ヒ國內又亂ルゼームスニ女一男ヲ生ハ
長女ヲマリト云ヒ荷蘭國令衆政令ノ大統領ヲラ
ニ「侯」ハルレムニ嫁ス次女ヲ「アンナ」ト云ヒ男子
ハ第三世ゼームスナレハ幼少ナリ此時ニ於テ國
内ノ「プロテスタン」ト宗ニ從フモノハ皆國王ノ忌
諱ニ觸レ自カラ其生ヲ安スルヲ能ハサルヲ以テ
多クハ荷蘭ニ出奔シテ竊ニ「ラニ」侯「ハルレム
ニ依賴ス「ハルレム乃チ「プロテスタン」ト宗ノ人ヲ集
メテ兵ヲ舉ケ英國ニ向テ其舅氏ゼームスヲ攻メ

シニ國人固ヨリ王ノ暴政ヲ厭ヒシヲナレハ敵ヲ
防クモノトテハ一人モナク國王ノ平生ヨリ賴ミ
ニセシ兵卒等モ戈ヲ倒ニシテ後ヲ伐ツノ勢ニテ
王ハ遂ニ佛蘭西ニ出奔セリ于時十六百八十八年
ナリ是ニ於テ議事院ヨリ國內ニ布告シゼームス
王ノ位ヲ廢シ「ハルレムヲ奉シテ英國王トナシ第
三世「ハルレムト稱ス「ハルレムハ元ト荷蘭令衆政
令ノ位ニ昇タルカ故「ハルレム王位ニ即テヨリ國
兩國一君ノ姿ナリ
法ヲ寬ニシ議事院ノ權ヲ重クシ王室ノ特權ヲ張
ルノ舊弊ヲ除キ宗門ノ議論ヲ鎮靜シ五十年来ノ

國亂ヲ一掃シテ英國ノ歴史更ニ面目ヲ新ニセリ
井ルレム在位ノ間佛蘭西王第十四世ロイス天主
教ヲ奉信シプロテスタンツ宗ノ人ヲ追捕スル
嚴刻ナルニ付キ英人ノ同宗ナルモノハ遙ニ之ヲ
憤リ且佛蘭西王元トノ英國王ゼームスノ一族ヲ
助ケテ其家ヲ恢復セントスルニ付キ遂ニ英佛
兩國ノ不和ヲ起シテ戰爭ニ及ヘリ○井ルレム王
ノ世ハ國內ノ貿易次第ニ繁盛シ人口益増加ス百
年前ハ龍動英國首府ノ人口二十五萬ナリシニ當時ハ
之ニ一陪シテ五十萬餘ニ至レリ○十七百零二年

第三世井ルレム死シテ子ナシ王妃マリメ妹アン
ナ立ツ千七百十四年死シテ子ナシ初ノ井ルレム
在世ノ時議事院トノ商議ニテ法ヲ立テ第二世ゼ
ームスノ一族及ヒ其他天主教ヲ奉スルモノハ王
室血統ノ子孫ト雖氏後來國王ノ位ニ昇ルヲ禁
スヘシト誓ヘリ此度女王死シテ嗣子ナキニ及テ
プロテスタンツノ宗門ニ歸依スル王族ヲ探索ス
ルニ第一世ゼームスノ曾孫ハノーラル日耳曼列國ノ名
ノ君ジョージナルモノ最モ近戚ナルヲ以テ乃チ之
ヲ迎ヘテ王位ニ即カシン第一世ジョージト名ク但

第一世 ジョージ一世 即位ヨリ ハノーヴァー 王室ノ姓ヲス

ラルト家ト稱セシカ第一世 ジョージ一世 後ハ改テ

ハノーヴァー家ト唱ヘリ千七百二十七年第一世 ジョージ一世

死シテ太子位ニ即ク之ヲ第二世 ジョージ二世 トス

王ノ宰相 ロバート・ワルポール ナルモノ第一世 ジョージ一世

死シノ世ヨリカヲ盡シテ王室ヲ補佐シ蘇格蘭ノ

叛賊ヲ平ケ蘇格蘭ノ叛賊トハ「ジャコブ」ナル人ト

鎮靜シ第二世 ジョージ二世 即位以來十二年ノ間國內太

平無事ニシテ諸民其德澤ヲ被ルハ専ラ宰相ノ力

ナリ千七百三十九年ニ至テ英國ノ貿易商人等西

班牙人カ亞米利加ノ地方ニ於テ貿易ノ利ヲ專ラ

ニスルヲ慣リ遂ニ兩國ノ怨ヲ結テ戦争ニ及ヒシ

リ平生不逞ノ輩此際ニ集シテ宰相ヲ讒シ遂ニ其

位ヲ黜ケタリ○千六百六十八年ノ騷亂ニテ第二

世 ビリーム ヲ放逐セシヨリ國內ノ人民王ノ不幸

ヲ追想シテ竊ニ徒黨ヲ結ビ「ジャコブ」家ヲ再興

シテ舊時ノ政治ニ復セント欲スルモノアリ且佛

蘭西ニテモ ビリーム ノ一族ヲ扶助シテ常ニ英國

ノ釁ヲ窺ヒシカ此度西班牙トノ戦争ニ引續キ國

内穩カナラサルヲ好機會トシ千七百四十五年第

二世ゼーハムスノ孫エドワルトナルモノ、佛蘭西ヨ
リ起テ蘇格蘭西北ノ地ニ渡リ其土地ノ貴族ヲ集
テ兵ヲ舉クシニ從來其家名ヲ追慕スル輩蜂起
雲集シテ之ニ應ジ一時ニ兵勢ヲ得漸ク南シテ英
國ノ本領ニ攻入リタレ本領ノ人ハ之ニ與ミス
ルモノ少ク且佛蘭西ノ應援ナキヲ以テ遂ニ復シ
蘇格蘭ニ引キコプロトデニニ於テ官軍ト戦ヒ遂ニ
敗走シタリ從來蘇格蘭ノ貴族ハ世祿ナリシカ今
般ノ騷乱平定シテ後政府ヨリ其爵祿ヲ奪ヒ痛ク
之ヲ壓伏シコレヨリ國內擾亂ノ患ナシ蘇格蘭兵

乱ノ後千七百四十八年英佛其他歐羅巴諸國互ニ
和睦ヲ結ヒ日耳曼ノアキストラシャツブルト六ハル
所ニテ同盟シタレトコノ和約遂ニ益ナシ此時ニ
於テ英國海軍ノ勢名次第ニ盛ニシテ遂ニ歐羅巴
諸國ニ冠タルニ至リシカハ佛蘭西ハ其海軍ノ威
權ヲ英ニ奪ハレタルヲ憤リ之ヲ恢復シテ海外ノ
所領ヲ廣クセント欲シコレヨリ英佛ノ間ニ隙ヲ
生シ又同時ニ普魯士ト奥地利トノ戦争モ未タ収
ラス歐羅巴各國ノ事體紛擾或ハ合縱シテ英ヲ攻
ノ或ハ連衡シテ佛ヲ敗リ遂ニ全州ノ大騷乱トナ

リ千七百五十六年ヨリ七年ヲ經テ漸ク平和ニ復
シタリ世人之ヲ七年ノ師ト唱フ千七百六十年大
戦争ノ央ニシテ第二世ジョージ死シ其孫第三世ジョ
ージ立ツ戦争ノ初ヨリ英國ノ宰相チャップマン、ピット
ナルモノ文武兼備ノ才德ヲ以テ内外ノ事ヲ處置
シ英國ノ兵常ニ勝利ヲ得テ其威名世界中ニ耀キ
シカ第三世ジョージ位ニ即クニ至テソノ宰相ヲ信
用スルヲ能ハス遂ニ之ヲ退ケ他人ヲ舉テ其職ニ
代ハラシメコレヨリ英國ノ武威俄ニ衰微シテ七
年ノ師ノ終ニ至リ各國ト和約ヲ結テ英國ハ北亞

米利加ノカナダヲ取レリ○七年ノ師平定シテ後
ハ海外所領ノ地ニ於テ人民次第ニ繁殖シ亞米利
加ニ在ル領地ノ内、カナダヲ除キ其余ノ地方ヲ分
テ十三州トナシ其人口二百五十萬ニ及ヘリ其外
東印度並ニ西印度諸島ノ地モ次第ニ開拓シテ富
饒トナレリ○第一世ジョージノ世ヨリ以來英國內
ニハ記スヘキ大事件ナシ連年五穀豐熟シテ下民
安樂ヲ極メリ千七百十五年ヨリ千七百六十五年
ニ至ルマテ五十年ノ間ニ凶年僅ニ三次、小麥ノ價
十六百年代ニ比スレハ半價ヨリ少シク貴キノミ

人口ハ甚ク増加セス千七百二十年國內ノ人員五百三十萬ナリシモノ千七百二十年ニ至テ六百四十萬人トナレリ故ニ職人役夫ハ日傭錢ヲ以テ自カラ富ヲ成シ更ニ苦情ヲ訴ルモノナク國內一般ノ風俗文明ニ赴キ禮義ヲ重ンシ次第ニ粗暴ノ舊習ヲ脱セリ○第三世ジョージノ世ニ至テ國民産業ヲ脩メエ作メ勉メ益富饒ヲ致シテ數年ノ間俄ニ全國ノ風ヲ一變シ人々皆門閥ヲ貴フノ政ヲ嫌テ自カラ不羈獨立ノ意ヲ生シ議事院ニテ國政ニ關ル者ノ内ニモ亦此黨ノ人アリテ專ラ下民ヲ寬裕

ニシ門閥ニ關ラサルノ說ヲ唱ヘシカハ政府ノ命ヲ以テ此黨ノ長タル井ルクスヲ議事院ヨリ黜ケタリコレヨリ國民不和ヲ起シ遂ニ一大事件ノ緒由トナレリ從來英國ニテ法ヲ寬ニシ門閥ヲ廢スルノ說ハ千六百五十年代ノ比ヨリ盛ニ行ハレテ其黨ノ人北亞米利加ノ領地ニ住居スル者多カリシニ此度本國ニテ同黨ノ黜クタレタルヲ聞テ既ニ同情相憐ムノ意ヲ生シ之ニ加ラルニ當時遇英政府ヨリ亞米利加諸州ヘ加稅ヲ取ルノ命令ヲ下シセシカハ州民大ニ憤怒シ遂ニ千七百七十六

年兵ヲ擧テ本國ニ叛キ獨立ノ機又ヲ布告シタリ
亞米利加ノ叛賊ハ其勢固ヨリ強盛ナルモ兵威ヲ
以テ之ヲ壓伏ス可カラサルニ非サレド佛蘭西、西
班牙、荷蘭ヨリ竊ニ其聲援ヲナシ且英ノ本國ニテ
モ他ノ歐羅巴諸國ト戰爭起リ内外ノ事多端ニシ
テ賊徒ヲ征服スルヲ能ハス千七百八十三年ニ至
テ遂ニ和約ヲ結ビ亞米利加ノ獨立令衆國タルヲ
許シタリ○亞米利加戰爭ノ後英國ノ宰相ロルト、
ノルス專ラ軍務ヲ司リテ大ニ人心ヲ失ヒ又同職
ゼーハム、ノラクスハ後來亞米利加戰爭ノ一ニ付キ

ノルスノ説ト相反シテ互ニ歡ヲ失ヒシカ戰爭ノ
終ニ至テ再ヒ相和シ議事院ノ官員中ニテ最モ權
威アル貴族輩ヲ引テ徒黨ヲ結ビ相共ニ謀テ王室
ノ權ヲ削キ議事院ヲ盛大ニセント欲シ新令ヲ建
テ印度地方ヲ議事院ノ支配ニ屬セントセシカハ
王ハ固ヨリ此徒黨ヲ惡ミシヲナレハ此度新令ヲ
出サントセシヲ宰相等ノ罪ニ歸シテ之ヲ黜ケテ
シサム、ピット第二世推臣ジョーノ少子サールレム、ピットヲ用
ヒテ事ヲ任セリ然ル所議事院ノ下院ニテハ議論
蜂起シ皆其命ニ服スルモノナク事情甚困難ナリ

ジカヒビットハ既ニ王ノ委任ヲ受ケ且國內ノ人心
痛クノルヌノ徒黨ヲ惡ミ又裁判局ニチモビットノ
説ニ左祖セシカ故ニ此機會ニ乘シテ遂ニ大事業
ヲ達シ議事院ヲ一掃シテ下院ノ異議ヲモ論破シ
新ニ其法ヲ改メテ得タリ此時ビットハ年二十四
歳ナリコレヨリ新宰相ノ威名國內ニ行ハレ尚又
人才ヲ擧テ各其所ヲ得セシム共ニ國事ヲ議シ之
ニ由テ從來不逞ノ輩モ次第ニ宰相ノ處置ヲ悅フ
ニ至リ任職ノ後十年ノ間國內周ク太平ノ德澤ヲ
被リタルハ宰相ビットノ力ナリ○千七百五十年ヨ

リ千七百七十年ノ間ニ英國内ニ大土エラ起シテ
水道ヲ通シ運送ヲ便ニシ千七百六十七年ニハハ
ルグリッウ氏紡績ノ機關ヲ發明シ千七百六十九
年ニハワット氏ノ發明ニテ蒸氣機關ヲ改正スル等
工作製造ノ法術一時ニ進歩シタルヲ以テ貿易商
賣ノ交、俄ニ繁昌シ第三世ジョージ即位ノ比ハ英國
一歲輸出品ノ高千五百萬ポンドナリシカ佛蘭西
騷亂ノ初ニ至テハ其高増シテ二千五百萬ポンド
ニ上レリ但シ國債ハ亞米利加戰爭ノ故ヲ以テ昔
日ニ比スレハ一陪ヲ増セリ○拿破崙ノ騷亂ハ千

八百二年アミーンノ和睦英佛ノヲ以テ中期トナシ此和睦ノ前ハ英ノ海軍武威ヲ振テ佛蘭西、荷蘭ノ海外所領ヲ奪却シタレバ陸兵ハ常ニ佛蘭西ニ破ラレ常テ勝利ナシ和睦ノ後ニ至テ宰相ビットノ處置皆其功ヲ奏セス然レバ亦斷然トシテ佛蘭西ノ指揮ヲ受ルノ意ナシ進退コ、ニ窮テ他人ニ職ヲ讓リタレバ千八百三年佛蘭西トノ和睦破ル、ニ及テ再ヒ職ニ歸リタリ○宰相ビット在職中ノ大功ハ阿爾蘭ヲ合併シタル一事ナリ阿爾蘭ハ昔年ヨリ英ノ所領タレバ本國政府ヨリ官吏ヲ遣テ其

王人ト政ヲ議シ自カラ別政府ノ姿ヲ爲シタリシカ千七百九十八年其部内ニ騷乱起リタルヲ以テ宰相ビット其機ニ架シ全ク之ヲ制伏シテ其別政府ヲ廢シ新ニ法ヲ定メ阿爾蘭ヨリ人物百名ヲ撰舉シテ下院ノ議事官トナシ亦上院ノ議事官ヲモ撰舉スルノ例ヲ立タリ○再ヒ佛蘭西トノ和ヲ破リシトキ英國ハ奧地利、魯西亞、シシリ國ト同盟シ佛ノ兵ト戰テ屢利ナシ千八百五年タハルガル山ノ内ニ於テハ英ノ水師提督子ルソン佛蘭西、西班牙ノ軍艦隊ヲ破滅シタレバ同年日耳曼ノオ

ストルツニ於テ埃魯ノ兵拿破崙ノ為ニ破ラレ
テヨリ同盟ノ兵勢遂ニ振ハス拿破崙ハ其兵ノ向
フ所天下ニ敵ナク意氣充滿シテ遂ニ又西班牙ヲ
伐テ之ニ勝テ國王及ヒ王族ヲ廢シ其弟ジョーゼフ
ヲ佛蘭西ヨリ迎立テ西班牙王トナシタリ蓋シ西
班牙王ハ佛蘭西ノ先王ト同族ニテ「ボルボン」姓ナ
ルカ故ニ拿破崙ノ私心ヲ以テ之ヲ惡ムナリ西班
牙ノ王族廢滅セラレテヨリ其國民拿破崙ノ強暴
ヲ憤リ王室ヲ恢復セントテ兵ヲ舉テ佛蘭西ニ叛
キシカハ英國ハ之ヲ好機會トシ西班牙人ヲ煽動

鼓舞シテ軍用金ヲ與ヘ兵ヲ貸シ相共ニ盟約シテ
佛蘭西ノ寇ヲ防キタレハ佛軍強盛ニシテ其鋒ニ
當ル可ラス次テ英國ノ將軍「エルリントン」同盟ノ
兵ヲ指揮スルニ及テ事體一變シタリ○「エルリン
トン」ハ千七百六十九年阿爾蘭ニ生レ少年ノキヨ
リ佛蘭西ニ遊テ兵法ヲ學ヒ千七百八十七年仕テ
英國歩兵隊ノ士官トナリ千七百九十七年東印度
ニ行テ其土人ト戰テ功アリ千八百五年英國ニ歸
リ連國及ヒ葡萄牙ノ為ニ戰テ勝利ヲ得各國ヨリ
非常ノ褒賞ヲ受ケ尚又此度ヒ西班牙及ヒ英國ノ

將軍ト爲テ同盟ノ兵ヲ指揮シテ佛蘭西ト戰テ屢
之ヲ破リ千八百十三年^{ウットリヤ}一戰ニテ盡ク
佛蘭西ノ兵ヲ西班牙ヨリ追ヒ出シタリコレヨリ
先キ拿破崙四十五萬ノ兵ヲ卒ヒテ魯西亞ヲ攻メ
シニ飢寒ノ爲多ク兵卒ヲ失ヒ僅ニ殘兵ヲ集メテ
佛蘭西ニ歸リコレヨリ各國ノ兵再ヒ蜂起シカヲ
合セテ佛ヲ攻メ千八百十四年遂ニ拿破崙ノ位ヲ
廢シテ^{エルバ}島ニ流シタリ翌年ノ春拿破崙^{エル}
^バ嶋ヨリ歸テ再ヒ兵ヲ起シタルヲ以テ英國ノ將
軍^{エルリントン}同盟諸國ノ兵ヲ指揮シ^{ワートル}

ロニ於テ佛ノ兵ト戰テ大ニ之ニ克チ拿破崙ヲ
捕テ^{シント}ヘレナ島ニ流シ多年ノ騷亂初テ平定
シタルハ^{エルリントン}ノ武功ト云フヘシ是ニ於
テ英國ハ^{エルリントン}ヲ以テ全權使節ト爲シ各
國ノ使節與地利ノ首府^{ウヰーン}ナニ會同シテ和
約ヲ結ビ各其侵地ヲ舊ニ復シタリ拿破崙ノ騷亂
ニ於テ英國ハ唯其侵入ノ害ヲ被ラサルノミニテ
戰爭ニ由テ得ル所ノモノハ甚少シ戰爭ノ間ニ押
領シタル荷蘭ノ所領^{ジャバ}爪哇及ヒ其他ノ領地モ皆其
舊主ヘ返シタリ

多年戦争ノ間英國內ヨリ官ニ收納スル貢税ノ高
甚多シ騷乱ノ終ニ至テハ一歳入税ノ高六千萬
ントニ近ク海陸ノ軍役ニ出ル者五十萬人許ナリ
毎歳右ノ税額ヲ收納スルノ外ニ國債ノ増シタル
一六億ポント余ニ上レリ國用ヲ費スル斯ノ如ク
莫太ナレハ千八百三年ヨリ千八百十五年ノ間ハ
國內最モ富饒ヲ致セリ蓋シ其故ハ一ニハ國民皆
騷乱ノ禍ニ羅リ止ムヲ得スシテ工業ヲ勤ムル
ト一ニハ騷乱ノ以前ヨリ蒸氣機關等ノ學術俄ニ
進歩シテ製造ノ工業大ニ便利ヲ得タルトニ由テ

ナリ

第三世 ジョージ 在位ノ終ニ至リ年既ニ老ニテ事務

ニ倦ミ内外ノ政事ハ皆太子ニ委任セリ千八百二

十年死シテ太子立ツ之ヲ第四世 ジョージ トス 在位

十年ニシテ死シ其弟位ニ即ク之ヲ第四世 井ル

トス 佛蘭西騷乱ノ後ハ歐羅巴州内都テ平穩ニ

シテ英國ニモ記スヘキ大事件ナシ千八百三十七

年第四世 井ル ム 死シテ子ナシ由テ第三世 ジョー

ジノ子 ケン ト侯ノ女子 フレクトリヤ ヲセリ即チ現

今ノ英國女王ナリ 阿片始末ト云フ書ニ英國女王

姉妹將ト爲テ攻入タルヲ支

那ニテ生捕リ云々ト記タリ然ルニフクトリヤハ
ケント侯ノ一女子ニテ兄弟姉妹ナキ直阿片ノ師
ハ千八百四十一年ノ此ニテ女王ノ年ハ二十歳前後
ナリ其妹ナラハ十七歳ノ女子ニテ大軍ヲ帥ヒ
支那ヲ攻メタル事ヲ説キ甚シキモノナリ此外支那
人ノ著シタル夷匪記録等ノ書アリテ方今田舎
ニ行ハルニハ盡ク歴説ノ小説○十七百年代ノ終
ヨリ學者謹テ之ニ惑ノ可ラス
ヨリ英國人阿片ヲ支那ニ輸入シテ其國人ト密ニ
賣買スルヲ支那ノ官吏憤怒シ英斷ヲ以テ此賣買
ヲ禁セント欲シ英國ノ「カビタ」ン官「エリット」ヲ捕ヘ
切カシテ價三百萬「ガン」トノ阿片ヲ出サシメ盡ク
之ヲ燒棄スリ事遂ニ戦争ニ及ヒ支那人敗衄シテ
英ノ為ニ廣東寧波及七舟山島ヲ取ラレ次テ和議

ヲ乞ヒ香港ヲ割テ英ニ與ヘ五港ヲ開キ只英國ノ
商賣品ヲ燒棄タル償金トシテ二千一百萬「ル」ラ
ヒヲ三年賦ニ約束シテ英國ヘ與ヘタリコレヨリ
英人ハ香港ヲ開テ貿易場トナシ今日ノ繁盛ニ至
レリ

政治

英國ノ政治ハ年代ニ從テ變遷シ其時々ノ人智ト
實驗トニ由テ體ヲ成セルモノニテ國初ノトキ預
政治ノ本論ヲ立テ次テ之ヲ實地ニ施シタルニ非
ラス唯知ラス識ラスシテ今日ニ至リ其景況ヲ見

ルニ嘗テ先見ノ識アリテ後世ヲ慮レルカ如シ殆
ント是レ人力ニ非ラス天ノ然ラシムル所ト云フ
ヘシ又道理ヲ以テ論スレハ斯ク自然ニ任シテ人
意ヲ交ヘサル政治ニ於テハ必ス乱雜ノ事アル可
キニ却テ然ラサルハ識者セ辨解スルヲ能ハス○
其政體血統ノ君主、國內ニ號令スルノ權アレハ別
ニ法律アリテ君主ノ權ヲ抑制ス此法律ハ三局ヨ
リ出ルモノナリ即チ三局トハ王室ヲ第一局トシ
上院ヲ第二局トシ下院ヲ第三局トス三局ノ内、國
王ノ位ヲ最上ト定ムレハ最上ノ權アルニ非ラス

上院下院ハ各別局ニ於テ事ヲ議シ説ヲ述ヘ國王
ヲ第一等ノ地位ニ置キ三局會同シテ政ヲ議ス所
謂議事院ナリ國政ニ關ハル事ハ先シ其事ヲ起シ
タル局ニテ同議決定シ次テ又他局ノ議ヲ經テ異
論ナキハ之ヲ國王ニ奏シ其免許ヲ得テ初テ一定
ノ國法ト爲ス即チ國王ノ免許ヲ得ル日ヲ以テ其
法ヲ施行スルノ日限トスルナリ又王室ヨリ議ヲ
起スヲアリト雖モ上下兩院ニテ異論アレハ之ヲ
施行スルヲ得ス○上院ハ其議事官四百三十七人
第一王族太子以下現今女王ノ贅婿ト第二不列顛雖モ皆上院ノ議事官ナリ

ノ貴族第三代任貴族第四教化師以上四類ノ會集
ナリ右ノ内王族及ヒ不列顛ノ貴族ハ世々其官位
ヲ子孫ニ傳レ_レ代任貴族ト唱ルモノハ蘇格蘭並
ニ阿爾蘭ノ貴族ヨリ互ニ人物ヲ撰舉スルモノニ
テ官位ヲ子孫ニ傳フルヲ得ス即チ蘇格蘭ヨリハ
十六人ヲ出シ每年新ニ撰舉ス阿爾蘭ヨリハ二十
八人ヲ撰舉シテ終身職ニ在リ教化師ハ宗門ニ係
ルモノニテ英倫及ヒ阿爾蘭ノ合衆寺院ヨリ出ツ
英倫ヨリ出ルモノハ總人數ノ内四人ヲ除キ他ハ
皆終身官位ニ居リ阿爾蘭ヨリ出ルモノハ毎年四

人ツ、順番ヲ以テ議事ニ參ルナリ○上院ノ長官
ヲ「カンヤロルト」云フ國璽ヲ預ル且上院ハ國政ヲ
議スルノ外ニ刑獄ヲ司ルノ權アリテ國中最大ノ
裁判ハ此局ニ止ル○下院ノ議事官ハ國民ノ撰舉
スルモノニテ在職七年毎ニ交代スル法ナレ_レ尋
常七年ヨリ短キヲ例トス議事官ノ數六百五十八
人アリ國內諸方ヨリ撰舉スル員數ノ法、次ノ如シ
即チ英倫四十郡ヨリ百四十四人大學校ニ所ヨリ
四人百八十六都府ヨリ三百二十三人ヲ撰舉シ令
テ四百七十一人ナリ「ラールズ」十二郡ヨリ十五人

五十七都府ヨリ十四人ヲ撰舉シ合テ二十九人ナリ
リ蘇格蘭三十三郡ヨリ三十人七十六都府ヨリ二
十三人ヲ撰舉シ合テ五十三人ナリ阿爾蘭三十二
郡ヨリ六十四人大學校一所ヨリ二人三十三都府
ヨリ三十九人ヲ撰舉シ合テ百五人ナリ○下院ノ
長官ヲスピークヒト云フ此長官ハ毎年議事院ヲ
開クトキ同局ノ議事官中ヨリ五ニ撰舉スルモノ
ナリ上院下院共ニ國政ニ關スルハ同様ナレヒ下
院ハ錢穀手形ノヲ議論スルノ特權アリ此特權
ハ上院ノ羨ム所ナレヒ決メテ之ヲ他ニ許サズ總

テ金錢ノヲ下院ニテ一定スレハ上院ヨリ之ヲ
變スルヲ得ス○政府ノ號令ハ國王ヨリ出ルニ非
ラス王室ヨリ出ルモノト視做セリ王室ノ大臣十
四名アリ其内最モ權威アルモノハ第一錢貨出納
ノ權ヲ執ル宰相ニテ即チ大閣老ナリ第二賦稅事
務宰相第三刑法事務宰相即チ上院ノ長官ナリ第四內國事
務宰相第五外國事務宰相第六海外所領事務宰相
此外ノ大臣ハ王室ニ定位ナクシテ參議スルモノ
ナリ海陸軍ノ事務ヲ司ル宰相ノ如キヲ云フ○右ノ如ク律ヲ定メ國
內治乱ノ責ニ任スルモノハ國王ニ非ラスシテ事

務宰相ナリ故ニ宰相タルモノ議事院及ヒ國民ノ
信ヲ失ハハ事柄ノ是非ヲ論セスシテ其宰相ノ職
ヲ免シ他人之ニ代テ其職ニ任シ國ノ爭端ヲモ開
クヘキ難事ヲ平和シテ痕跡ヲ殘スヲナシ故ニ其
政治ノ景況恰モ精巧ナル器械ノ如ク一體ノ内自
カラ調和ノ妙機アリ若シ外ヨリ強暴ヲ以テ之ヲ
壓スル歟或ハ内ヨリ互ニ不和ヲ生シテ離散スル
等ノヲナクハ此政治ハ天地ト共ニ永久スヘシ
○英國ニ於テハ政府ヨリ人ヲ教育スルノ法律ヲ
建ルヲナク多クハ宗門ノ社中ニテ學校ヲ設ケ國

中人々ノ意ニ任シテ其入用ヲ出サシノ一歳ニ集
ル所ノ金高甚多シ小學校ノ如キハ大概皆此法ニ
由テ設ルモノニテ凡ソ少年ヲ教育スルニ金ヲ費
スヲ多キハ世界第一ト云フ可シ但シ政府ヨリ
ノ取締リナキヲ以テ或ハ此金ヲ用ルニ趣意ヲ失
フヲモアレハ政府ヨリ之ニ關係スルヲアラハ隨
テ又弊害ヲ生ス可キカ故ニ其利害得失知ル可ラ
サルナリ學校ニ備ヘタル積金ノ利息並ニ毎年國
中ヨリ寄附スル所ノ金高ヲ總計スルハ年々四
十萬ポンドニ及フヘシ○右ノ小學校ハ專ラ上等

中等ノ人ヲ教ユル爲ニ設ケタルモノアレバ近來
ハ又貧賤ノ子ヲ教育シテ國ノ文明ヲ十分ニセシ
トテ益々學校ヲ設ケ中ニ就テ日曜學校ト唱フルモ
アリ此學校ニテハ日曜日ノ夕毎ニ教授スルヲ
以テ此名ヲ得タリ○千八百五十一年英倫及ヒ
ールスノ人口一十七百九十二萬七千六百九人ニ
シテ尋常學校ノ生徒二百十四萬四千三百七十八
人日曜學校ノ生徒二百四十萬七千六百四十二人
アリ故ニ之ヲ人口ノ數ニ比例スレハ尋常學校ノ
生徒ハ人口ハ人三分六釐ト一人トノ如ク日曜學

校ノ生徒ハ人口七人四分五釐ト一人トノ如ク○
學校ニテ人ヲ教育スルノ法ハ普魯士荷蘭等ノ諸
國ニ一等ヲ讓ルト云フモノモアレバ其實ニ然ル
ヤ否ハ知ル可ラス但シ英人々學術工作ノ諸科ニ
於テ他國人ニ超越スル所以ハ教育ノ行届タルニ
非ラス唯其國律寬裕ニシテ人ヲ束縛セス人々ヲ
シテ其天稟ノ才力ヲ伸ヘシムルニ由テ然ルナリ

海陸軍

英國ノ廣大ナルニ準スレハ兵卒ノ數モ必ス多カ
ラサルヲ得ス然ルニ國民ノ數ト兵卒ノ數トヲ割

合ニスレハ歐羅巴州中ニ於テ英國ノ常備兵最
少シ千八百五十二年ノ記載ニ從ヘハ國王ノ親兵
千三百騎ト歩兵五千二百人ヲ令テ兵數凡ソ十二
萬九千六百二十五人之ニ大砲隊ノ兵一萬四千四
百十人ヲ加テ總計十四萬四千零三十五人ナリ此
内本國ニ在ルモノハ僅ニ五萬九千九百四十七人ニ
シテ他ハ皆海外所領ノ地ニ備ヘリ又本國ノ兵ヲ
二部ニ分ナ三萬零三百五人ハ不列顛ニ備ヘ二萬
千六百四十人ハ阿爾蘭ニ備ヘリ故ニ防禦ノ兵陸
軍ノ勢ハ遠ク海軍ニ及ハサルヘシ又英國ハ四方

海岸ノ地ト雖天險ノ要害アルニ非ラス唯人力
ヲ以テ防禦スヘキノ國ナリ往古北方ノ敵
軍艦ヲ以テ急ニ其海岸ヲ襲ヒシニ地方廣遠防
禦ノ力足ラスシテ敗衄ヲ取タルアリ是レ全ク
要害ノ頼ムヘキモノナキニ由テナリ故ニ方今ト
雖英國ニ於テ海軍ノ武威ヲ失ハ、海岸ヲ防禦
スル能ハサルヲ皆日ノ如クナルヘシ
千八百五十二年ノ記載ニ從ヘハ國王ノ親兵
千三百騎ト歩兵五千二百人ヲ令テ兵數凡ソ十二
萬九千六百二十五人之ニ大砲隊ノ兵一萬四千四
百十人ヲ加テ總計十四萬四千零三十五人ナリ此
内本國ニ在ルモノハ僅ニ五萬九千九百四十七人ニ
シテ他ハ皆海外所領ノ地ニ備ヘリ又本國ノ兵ヲ
二部ニ分ナ三萬零三百五人ハ不列顛ニ備ヘ二萬
千六百四十人ハ阿爾蘭ニ備ヘリ故ニ防禦ノ兵陸
軍ノ勢ハ遠ク海軍ニ及ハサルヘシ又英國ハ四方

英國ニテハ兵卒ヲ舉ルニ定法ナシ人々ノ意ニ任セ軍役ヲ好ムモノヲ取テ兵卒トナス其給料ハ仕役ノ年數ト職業ノ異同トニ由テ多寡アリ即チ親兵ノ騎士ハ一日ノ給料一「ギルリング」九「ペンス」乃至二「ギルリング」尋常ノ騎兵ハ一日「ギルリング」四「ペンス」親兵ノ歩卒ハ一日「ギルリング」二「ペンス」尋常ノ歩兵ハ一日「ギルリング」一「ペンス」ト定メ然レモ無事ノ日屯所ニ居ルモ食料ノ代トシテ六「ペンス」ヲ引キ又衣服諸具モ官府ヨリ與フレモ其代トシテ給料ノ内ヲ引クカ故ニ兵卒ノ手ニ受取ル高ハ

甚タ少シ但戰爭ニテ手癩ヲ蒙リタルモノ並ニ老年ニ及テ軍役ニ出ルヲ能ハサル者ニハ官府ヨリ扶助金ヲ與テ生涯ヲ終ラシム

○英國ノ海軍ハ往昔ヨリ熟練セル所ニテ國中第一ノ武備ナリ千七百零七年上院ノ議事官ヨリ女王「アンナ」ニ呈シタル上書中ニ云ク此國ヲ富強ニ爲シテ榮名ヲ世ニ耀カス所以ハ海軍ヲ盛大ニシテ貿易ヲ勉メ其守護ヲ爲スニ由テナリ略中故ニ陛下海軍ヲ以テ國中第一ノ事務トシ專ラ之ニ注意シ給ハン臣等ノ深ク懇願スル所ナリト此時ニ

於テモ上院ノ議事官ハ國內ノ人心ヲ察シテ上書
シタルヲナレハ英人ノ海軍ニ意ヲ用ユルハ極膏
ヨリ今日ニ至ルマテ同様ナルヲ知ルヘシ
海軍ノ帆前船蒸氣船ノ數之ニ備ル大砲ノ數並ニ
蒸氣機關ノ力ヲ馬ノ力ニ比例シタル數ヲ記ルス
ナリ
左ノ如シ但シ千八百五十年ノ書記ニ出ルモ、

第一等ノ軍艦十九艘各、大砲百二十挺百十九挺乃
至百十挺ヲ備ヘ砲數合テ二千二百十六挺
第二等第三等ノ軍艦七十六艘各、大砲百四挺乃至

七十挺ヲ備ヘ砲數合テ六千百九十六挺

第四等第五等第六等ノ軍艦百二十六艘各、大砲五
十五挺乃至十八挺ヲ備ヘ砲數合テ四千八百七十
三挺

スル一ノ船七十九艘各、大砲十八挺乃至八挺ヲ備
ヘ砲數合テ九百八十六挺

カリゾ船十六艘各、大砲六挺乃至三挺ヲ備ヘ砲數
合テ七十八挺

蒸氣ブレガト船三十二艘蒸氣力ノ總計一萬二千
二百二十二馬力大砲ノ數合テ三百八十一挺

蒸氣スル一船四十二艘蒸氣力ノ總計一萬三千三百馬力大砲ノ數合テ二百五十一挺

蒸氣スル一船三十八艘蒸氣力ノ總計六千七百四十八馬力大砲ノ數合テ百二十五挺

蒸氣スル一船二艘蒸氣力ノ總計百二十馬力大砲ノ數合テ二十挺

右ノ外番船ニ用ル第四等軍艦ノ蒸氣力總計三千八百馬力

總計軍艦四百二十艘大砲一萬五千零二十六挺其内蒸氣船百十四艘蒸氣力合テ三萬六千八百八十馬

力但シ蒸氣飛脚船ハ此數ニ算入セス

航海ノ士官水夫二萬九千五百人水戰ノ士官兵卒一萬三千五百人總計四萬三千人

海軍ノ總督ヲロルド、ハイ、アドミラルト云ヒ海軍局ノ全權ヲ執リ士官ヲ命シ其褒貶黜陟ヲ為シ軍艦隊ノ法則ヲ定ル等ノ事務一切之ヲ司ル但シ海

軍ノ大法ハ議事院ヨリ出ルナリ

海軍士官トナルモノハ初メハ先ツ無役ニテ軍艦ニ乘リ次テ手傳士官トナリ手傳士官ノ職ヲ勤ムルヲ六年ニシテ年十九歳ニ至レハ吟味ノ上ニテ

下等士官トナリ次第ニ等級ヲ進ムヘシ是等ノ進
退ハ皆海軍局ノ評議ニテ定マルモノアリ又海軍
ニ入ル前ニポールトマウスノ海軍學校ニテ教授
ヲ受クルモノハ例外ノ等級ニ登ル可シ○水夫ハ
人々ノ意ニ任セテ仕役スレバ事變アリテ人數不
足スル片ハ政府ノ威權ニテ強ヒテ海軍ノ水夫ヲ
取ルヲセアリ爾後年々蒸氣船ノ數ヲ増シ千八百
セテ七百餘艘ニ至テハ大小ノ軍艦合
ナリト云フ

錢貨出納

歐羅巴諸國ニテ英國ノ租稅最モ多ク十八百五十

四年ニ至テハ一歲ノ入稅五千七百萬ポンドノ高
ニ上レリ然レバ英國ハ他國ヨリモ收歛シテ民ヲ
苦シムルニ非ラス唯其稅法宜キヲ得テ國民皆之
ニ堪ルニ由テ斯ク夥多シキ高ヲ收ルナリ他國ニ
於テハ或ハ其稅法公平ナラサルヲモアレバ英國
ニ於テハ然ラス貧富貴賤一樣ニ租稅ヲ收ルヲ趣
旨トセリ英人ノ活計ニ苦ム所以ハ租稅ノ苛酷ナ
ルニ非ラス衣食ノ高價ナルニ由テナリ然レバ衣
食ノ高價ナルハ決シテ患フヘキニ非ラス却テ其
國ノ幸ト云フヘシ其故ハ衣食高價ニシテ活計ニ

昔ノハ人民止ムヲ得スシテ工業ヲ勤メ隨テハ新發明ノトモ有テ國益トナレハナリ○英國ニテ收稅ノ大趣意ハ人生必用ノ品物並ニ製造物ノ内質素ナル粗品ニハ稅ヲ輕クシ奢侈ニ屬スル品物並ニ人命ニ害アル品物酒烟草ニハ稅ヲ重クス蓋シ奢侈ニ由テ美品ヲ用ユル者ハ固ヨリ其高價ヲ拂ヒ得ヘキノ理アリ又不幸ニシテ有害ノ物ヲ服用スルノ癮アル者ハ其物ノ高價ナルニ由テ止ムヲ得ス自カラ服用ヲ禁スルコトアルヘキノ理ナリ○一歲ノ入稅三十分ノ二ハ諸港ノ運上並ニ國內產物

ノ運上ヨリ收納ス千八百五十二年一歲出入ノ會計左ノ如シ

歲入

三千百十七萬七千五百十二ポンド

港運上

六百七十五萬一千三百四十四ポンド

國內產物並ニ官許ノ運上

六百九十二萬一千二百九十九ポンド

證印稅

三百五十五萬九千六百七十二ポンド

地稅家稅等

五百六十五萬二千七百七十ポント

家產稅

二百四十四萬二千三百二十七ポント

飛脚印

三十五萬八千二百六十五ポント

政府所有ノ土地山林ノ運上

八十九萬二千四百二十七ポント

諸運上

總計五千七百七十五萬五千五百七十一ポント

百六十二年 會計ニハ歲入七
千三百萬ポント 余ニ上ルト云

歳出

三百六十三萬八千七百三十三ポント

港運上並ニ國內ノ諸運上ヲ取立ル雜費

二十七萬九千三百五十三ポント

國債ノ利息及ヒ其元金ヲ返シタル高

百五十八萬四千六百六十七ポント

文官定式ノ入用即チ王族ノ雜費政官ノ給料議

事院ノ入用等但シ國王自用ノ費ハ三十八萬ポ

ントナリ

二百十萬零四千百九十六ポント

裁判局ノ入用

三十三萬二千四百六ポント

外國局ノ入用

一千六百十三萬五千九百五ポント

兵備ノ入用但シ本高ノ内陸軍ノ入用七百零一

萬八千百六十四ポント海軍ノ入用六百六十二

萬五千九百四十三ポント大砲隊ノ入用二百四

十九萬一千七百九十八ポント

百三十四萬一千五百九十九ポント

飛脚場ノ入用

七十三萬一千二百九十九ポント

土工ノ入用

七萬七千五百三十三ポント

政府所有ノ土地山林ノ入用

十二萬五千二百八ポント

貿易場貸藏ノ入用

二百二十二萬三千六百八十八ポント

右ノ条々ニ載セサル諸雜費

總計五千五百二十二萬九千三百六十七ポント

附錄

○英國ノ海外ニアル所領ハ甚タ廣大ナリ其大概
ヲ舉レハ北亞米利加北方ノ地即チカナダ西印度
南北亞米利加ノ界喜望峰澳大利亞オーストラリア及ヒ東印度是
ナリ世上一般ノ説ニ英國ハ海外所領ノ地廣キカ
故ニ本國ノ富饒ヲ致シ兵力強盛ナリト云フモノ
多シト雖其說當ヲサルニ似タリ亞米利加州ヲ
發見シ人ヲ移シ喜望峰ヲ廻テ東印度ト貿易ス
ルニ至テ其利益ヲ得ルノ洪大ナルハ獨リ英國
ニ非ラス諸羅巴諸國皆同様ノリ海外ノ地ヲ開

拓シノ其ハ人民第一文明一趨キ自カク列政府ヲ
建ツヘキノ務ニ至レルモノヲ尚其舊ニ依テ之ヲ
屬地トナシ本國ニリ支配スルト或ハ之ヲ免シテ
獨立セシムルト何レ歟其本國ノ爲ニ利益トナル
ヘキ哉未ク其得失ヲ定メ難シト雖其恐クハ其獨
立ヲ許スノ方利益アルヘシ北亞米利加及ヒ西印
度ニ所領ノ地アレバ今日ニ至ルマデ此領地ヨリ
一錢ヲ收約シテ英國ノ費用ニ供シタルヲナシ加
之其土地ヲ守護スル爲ニ多ク軍艦ヲ送り陸兵ヲ
備ヘ其雜費ハ本國ヨリ出シテ領地ノ人民ハ却テ

之ヲ知ルナシ故ニ海外ニ所領ノ地アルトモ本
國ノ利益トスル所ハ唯之ト往来シテ貿易スルノ
一事ノミ然レモ海外ノ領地ト貿易スルハ外國ニ
行テ貿易スルニ異ナルナシ凡ソ他人ト貿易ス
ルニ於テ天然ノ理ニ從ヒ双方ノ利益トナルニ非
サレハ其本國ノ為筋ト云フ可ラス若シ天然ノ理
ニ從テ双方ノ利ヲ謀ルキハ所領ノ地ヲシテ獨立
國トナラシメハ其利愈大ナルヘシ其實證ヲ舉レ
ハ亞米利加合衆國ノ獨立シテヨリ以來英人常ニ
此國ニ往来シテ双方ノ交際益繁盛シ貿易ノ利愈

大ナリ又北亞米利加ノカリビハ英國有テ所領地
ナレモ此領地ニ行テ貿易スルニ或ハ其土人ノ好
マサル所ヲ犯スニ由テ時々難事ヲ生スルナリ
且此地ヨリ輸出スルモノ一品ニテモ他國ヨリモ
便利ニシテ價ノ廉ナルモノナシ海外ノ領地ト強
テ貿易スルトモ固ヨリ害有テ益ナク且獨立ヲ欲
スルモノヲ壓伏シテ屬地トナシ置カンニハ本國
ノ入費甚タ大ナリ方今英國ニテカナダノ地方ヲ
失ハサル所以ハ唯兵力ヲ以テ其土人ヲ鎮靜スル
ニ由リナリ此大兵ヲ備フルノ費用一年百五十萬

ポントニ下ラス然ル其地ヨリ得ル所ノ利益ハ
 費ス所ノ高ヲ償フニ足ラス且識者ノ説ニ「カナダ」
 ハ早晚獨立國ト爲ル歟又ハ亞米利加合衆國ノ國
 版ニ入ルヘシト云ヘリ○又西印度ノ領地ニハ多
 ク砂糖ヲ産シ之ヲ英國ニ輸入シテ其運上ノ高甚
 大ナリト云ヘルモ「アレヒカナダ」ニモ茶烟草ヲ
 産シテ之ヲ英國ニ輸入シ運上ヲ納ル「ハ西印度
 ノ砂糖ニ異ナル」ナシ且西印度ニ砂糖ニ産スト
 雖ニ其品物ヲ輸送スル者ハ英ノ商人ナレバ故ニ
 英國政府ハ正國人ヨリ稅ヲ取ルナリ加之西印度

諸島ノ砂糖

 キニバ 西印度ニアル
 西班牙ノ領地
 プラシル 南印度
 利加中

 ノ獨ヨリ輸スルモノニ比カレハ其價却テ高キ
 立國ニ此砂糖ヲ用ユルハ本國ノ損亡ト云フヘシ
 ○右ノ次第ニ付キ英國ノ盛大ナルハ其領地ノ廣
 キ故ナリト思フハ大ナル誤解ナリ海外ノ領地ニ
 行テ貿易スルハ他ノ獨立國ト貿易スルノ便利ナ
 ルニ如カス且所領ノ地ハ世界中諸處ニ散在シテ
 本國ヨリノ距離甚々遠キ故ニ戰爭ノ片ハ敵兵
 ノ襲撃ヲ受ケ易ク之ヲ守護スルニハ多少ノ工夫
 ヲ費シ軍用ヲ失ハサル可ラス又覆熟考スレハ海

外ノ所領ハ本國ノ勢ヲ弱クスルモノト云テ可ナ
リ英國ノ富強文明ニシテ他ニ擢ツル所以ハ其地
理ノ便利ニシテ產物ノ多キト人才ノ多クシテ政
治ノ公正ナルトニ由テナリ既ニ地理ノ辨ヲ得又
政治ノ公正ナルアラハ海外ノ領地ヲ失フト雖モ
毫モ患フルニ足ラサルナリ○東印度ノ地方ハ他
ノ領地ト異ナリ屬國ノ如キモノニテ時々英國ハ
貢稅ヲ納ルヲアリ然レモ此貢稅モ世人ノ思ノ如
ク莫太ノ高ニハ非ラス之ヲ年々平均スレハ其細
ノモノナリ

マルタ島 地中海中
ジブラルタル 地中海中

岸ノ如キハ軍艦商船ヲ寄セ戰爭ノ兵糧ヲ
貯ヘ武器ヲ置キ此地ヨリ兵ヲ出シテ敵國ニ向フ
可キカ故ニ緊要ノ領地ト云フヘレ
海外ノ地ヲ領シテ本國ノ利益トナル所ハ過多ノ
人民ヲ其地ニ移シ人々ヲシテ天稟ノ才力ヲ伸ハ
産業ヲ營ムヲ得セシムルニアルナリ毎年英國ヨ
リ海外ノ地ヘ移住スルモノ甚ク夥多シ殊ニ亞米
利加合衆國ハ元ト英國ノ領地ニテ言語同ク道程
近ク氣候平和ニ且其國ニ移テ土地ヲ得ルヲ容易
ノ故ニ英人ノコニ居ヲ移スモノ最モ多シ

千八百一十五年ヨリ千八百四十九年ニ至ルマデ
二十五年ノ間ニ英人ノ海外ニ移住シタル者ノ數
左ノ如シ

北亞米利加ニ在ル英國所領ノ地ニ移リタルモノ

八十萬零八千七百四十人

亞米利加合衆國ニ移リタルモノ

百二十六萬零二百四十七人

澳大利亞ニ移リタルモノ

十八萬五千三百八十六人

右ノ外諸方ニ在ル英領ニ移リタルモノ

三萬零八百一十二人

總計英國ヨリ出タルモノ二百二十八萬五千八百

十四人ナリ

西洋事情卷之三 終